

パソコンが 僕の生き方を 変えた

52歳からの挑戦

荒川じんぺい



荒川じんぺい

1946年、栃木県生まれ。装幀家、エッセイスト、流木造形家。日本文藝家協会会員、日本冒険作家クラブ会員、国際焚火学会会員。

著書に『僕は森へ家出します』『流木造形——荒川じんぺい作品集』『週末は森に棲んで』『子どもとはじめる自然[冒険]図鑑6 はじめての山野術』『少年に還る森』『森に住んだ観音さま』『森の作法』『週末は山歩き』他多数。

編集協力：福田靖子

パソコンが僕の生き方を変えた

2001年2月23日 第1刷発行
2001年3月26日 第3刷発行

著者 あらかわ 荒川じんぺい

発行者 大塚信一

発行所 株式会社 岩波書店
〒101-8002 東京都千代田区 一ツ橋 2-5-5

電話 案内 03-5210-4000
<http://www.iwanami.co.jp/>

印刷・法令印刷 カバー印刷・NPC 製本・松岳社

© Jinpei Arakawa 2001
ISBN 4-00-024401-9 Printed in Japan

パソコンが僕の生き方を変えた

52歳からの挑戦



パソコンが
僕の生き方を
変えた

52歳からの挑戦

荒川じんぺい



岩波書店

目次

はじめに.....	11
-----------	----

僕がパソコンに惹かれた理由.....	20
--------------------	----

【僕の知恵袋】

パソコンは熟年こそ楽しめる道具

パソコン助っ人との出会い.....	29
-------------------	----

自分の買える範囲から

パソコンの夢

パソコン教室で基本知識

【僕の知恵袋】

まずは手に入れる

パソコンの助っ人を探せ

パソコン教室を覗くこと

パソコンが繋がった!!.....50

パソコン開封の心得

インターネット回線とプロバイダーとの契約

【僕の知恵袋】

他人まかせでも覚えることが大切だ

インターネットの接続回線はどうするか

パソコンで文章を書けた.....66

文字入力には「かな」と「ローマ字」があった

コマンドファイルの効用

パソコンが壊れた!?

【僕の知恵袋】

ソフトとは何?

僕流のキーボード上達術

画面が動かなくなったり、起動しなくなったら

パソコンで絵を描く.....86

イメージ編集ソフトが仕事の幅を広げた

お絵描きソフト

【僕の知恵袋】

絵葉書のすすめ

いろいろな用紙でひろがる楽しみ

デジタル・カメラを活用する

110

デジタル画像の保存形式とは？

失敗は成功の元、壁紙ができた

【僕の知恵袋】

デジカメとパソコンで気をつけたいこと

さまざまな画像形式

パソコンは道具である

125

データの保存場所

パソコンに裏技あり

【僕の知恵袋】

マウス操作は、身体が覚えてくれる

インターネットでホームページを見た

139

パソコンへの確信

インターネットの衝撃

【僕の知恵袋】

フロバイターの決め手

ネットサーフィンのやり方

森からの電子メール……………160

電子メールが結ぶ人間関係……………167

【僕の知恵袋】

電子メールで基本的なことだけと注意したいこと

インターネットとは何か?……………176

僕のホームページ!!

出版メディアとインターネット

不愉快な警告

【僕の知恵袋】

パソコン操作中に受ける警告

ホームページ作りは簡単?……………189

自然は素材の宝庫

ホームページは家造りと同じ

【僕の知恵袋】

デジタル・カメラの画質について

ホームページ制作で必要なもの

簡単なホームページを作った.....206

やっぱり欲しい自分のドメイン

【僕の知恵袋】

ホームページ制作の基本的な流れ

ウェブマガジンを創刊した.....222

ホームページを再考した

サーバへのアップロードは

女房のクラフト製品が売れた

あとがき.....239

用語解説

過去から現在まで所有しているパソコンと周辺機器

機器名	製品名	スペック
コンピュータ	ノートパソコン: PC-9821 Aile Ls 150	CPU MMX Pentium 150MHz
	OS: Windows-95	RAM 32MB (+32MB)
	(1997年5月スタート時購入)	HDD 1.4GB (IDE)
		12.1inch TFT液晶 800×600dot
コンピュータ	じんべい・スペシャルⅠ	CD-ROM (11倍速)
	OS: Windows-98	3.5インチFD 本体分離型
	自作機(1999年6月製作)	PCカード×2
		SCSI-Ⅱ PC カード
コンピュータ	じんべい・スペシャルⅡ	CPU Pentium Ⅱ 450 MHz
	OS: Windows-Me	RAM 128 MB
	自作機(2000年12月製作)	HDD 8.4GB (IDE)
		CD-ROM (32倍速)
コンピュータ		230MB MO Unit(SCSI)
		SCSI-Ⅱ I/F
		LANカード
		17インチCRT
コンピュータ	じんべい・スペシャルⅢ	CPU Pentium Ⅲ 800MHz
	OS: Windows-Me	RAM 256 MB
	自作機(2000年12月製作)	HDD 40GB (IDE)
		CD-R/RW (32/12/10倍速)
コンピュータ		640MB MO Unit(IDE)
		SCSI-Ⅱ I/F
		LANカード
		17インチCRT
イメージスキャナ	Multi Reaber	SCSI
	EPSON GT-7000S (1999年購入)	
プリンタ・カラー用	NEC Picty300	インクジェットプリンタ
	EPSON Calario PM-800C	インクジェットプリンタ
プリンタ・モノクロ用	(1999年購入)	
	Canon SuperG3 Medio21	デジタルプリンタ
デジタルカメラ	NEC Picona	35万画素
		記録媒体 コンパクトフラ
		ッシュカード 15 MB
	NIKON CoolPix990	334万画素 CCD
MOドライブ	(2000年12月購入)	3倍ズーム ニッコールレンズ
	BUFFALO (外付け)	230 MB SCSI
タブレット	WACOM Art Pad	
	Graphics Tablet Prp	
PCカード	ビデオキャプチャーカード: IO-DATA	
	PC CAP	
モバイル機器	GPS モバイルコミュニケーター:	GPS 機能内蔵
	Locatio PNV700M	CPU SH3 8MB+16MB
		カメラ内蔵 5.1mm CCD カラー 27万画素
		Battery: 充電式ニッケル水素電池単3形×2
ターミナルアダプタ	AtermIT55DSU	ISDN 用ターミナルアダプタ

はじめに

僕は今年五五歳、八ヶ岳と東京と住み分けながら、仕事と人生を楽しんでいる。実は五二歳まで、デジタル的なものからもうとも遠い生き方をしていた。だが、この三年の間に、朝の目覚めてからの習慣がガラリと変わった。

それまでというものは、テーブルに置かれた新聞をマグカップ片手にたつぷり一時間かけて読むのが、一日のはじまりだった。それが今や、目覚めるとすぐパソコンのディスプレイに向かう。電子メール（Email）を開け、つづいて新聞社系のホームページを開ける。そうしたホームページには、その日の重大ニュースをはじめ、前に起こった事件やニュースの後追い記事も掲載されていて、内容が容易に把握しやすい。パソコンを二、三〇分程覗く間に、世の中の今日の動きは理解できる。それから、ゆっくりとコーヒーをすすりながら、新聞のコラムを読むのが日課になった。

ある頃から、パソコンを意識しはじめた。唐突にはない。周囲の状況を見ると、パソコンができれば仕事がなくなるのではと感じたからだ。リストラばやりの昨今、我が残りの人生設計が狂うかもしれない危機感を持ったのである。何とオーバーなと思う方もいるだろうが、僕の生きる出版界では実際そうした例をいくつも見聞きしてきた。

いま書籍や雑誌が作られる過程で、DTPによる編集・入稿という作業が中心となってきた。DTPは、Desk Top Publishingの略で、コンピュータやワークステーションを使って文字や図版、写真を編集・レイアウトし、タイプセッターで印刷用版下をつくって高品位プリンタで印字することだ。従来の出版は、編集者、デザイナー、写植オペレーターなどの分業で進められていた。だが、このソフトウェアのシステムを使うことにより、ひとりで編集からデザインやレイアウト、版下制作まで一貫して作成できるようになったのである。

雑誌の紙面を構成するのがデザイナーの職分だが、僕は本の装幀を中心に、この職に永らく携わってきた。この仕事は、編集者の指示する紙面にタイトル、原稿、写真を定規と鉛筆で紙面に割り付け（レイアウト）し、印刷所へ入稿していく。次に、そのレイアウトを元に、製版される元になる版下制作がある。これは指定用紙に写植という文字組みが印画紙に焼き込まれたものを貼り込む作業だ。この職分は、版下工と写植オペレーターという人たちの手になる部分で、印刷所

に入稿されるまで何人もの人々の分業になっていた。そうした仕事が前述したDTPシステムによって、デザイナーひとりの作業で済むようになってしまった。つまり、これらの職分がすべてパソコンに取って代わられたわけで、デザイナーもパソコンが操作できなければ失業するという状況がいつのまにかできあがっていたのである。

僕のような装幀家は、もともとデザインから版下制作までひとりでやる仕事だから、なおさら厳しい状況になった。実際、デザイナーの友人の何人かはパソコンを拒否して失業し、編集プロデューサーやコーディネイターのような仕事に転職してしまった。また、これまで依頼していた写植オペレーターたちは、仕事が減少し、DTPシステムを学習しなめたと断言する。

前述した危機感にはそうした背景があった。

だが、仕事の道具として取り入れたパソコンは、我が人生に変化をもたらした。「変化」というより「革命」というべきほどのできごとだった。

一五歳でデザイナーを志して以来、鉛筆と紙と絵筆と定規は、なくてはならない道具だった。一つのイメージを構想し具体化するには、鉛筆と絵筆と定規で何枚ものスケッチを描かなければならない。それら画材類がパソコン上では、まったく必要としなくなってしまったのである。

ディスプレイに向かい、画像処理ソフトを起動して、本の表紙のサイズを打ち込み、白紙のス

ペースの上に思い浮かぶイメージを線と点と面で自由自在に描く。色も素材も思いのまま。ときには使いたい絵画や写真を、スキャナでパソコンへ取り込み、自在にトリミングして画像を交換する。題名や著者名の文字にしても、何百もある書体から随時選択でき、サイズも思いのままに変えることができる。パソコンを習熟するにつれ、それまでの画材を捨ててしまった。

僕は二〇代から手が震えるという癖があり、描画や版下制作に苦勞していた。これまで〇・一ミリの真っ直ぐな線を定規で引くのに、奥歯を噛み締め、息を止めて引いていた。そのため一〇数年の内に、奥歯はボロボロになってしまった。それがパソコンを使うようになってからというもの、どんな太さの線も自在に簡単に引ける。装幀につかう写真や絵画も、カラージュしての複雑な合成も簡単に可能で、イラストレーションも自在に描ける。ペンや筆で描く絵とは、あきらかに違ったスタイルではあるが、それに近い画法と手法は表現できる。仕事中に歯を食いしばらなくて良いということは、どれだけ気分が良いことか、この歳になって解放された思いである。今ではデザインした本のカバーも、印刷に入稿する版下も、電子メールを使って相手に簡単に送れてしまう。これまで装幀の依頼があると、具体的なイメージを描いたカンブやラフスケッチを前に編集者と直接会って打ち合わせをしていた。だが、パソコンを導入してからというもの、そんな時間を必要としなくなった。カンブやラフスケッチさえ、編集者の電子メールへ送り、それぞれ互いのパソコンのディスプレイ上に映し出されたスケッチを見ながら電話で感想と意見の

交換ができる。そして、印刷入稿に必要な装幀原画も版下もデータとして制作し、電子メールで送れるのである。が、書いた文章を電子メールで送信する速さはファックスの比ではない。

こうして書き手と編集者は、まったく顔を合わせなくても仕事が済んでしまう。このような仕事のやり方の是非は別として、遠距離であってもパソコンのディスプレイを通して隣り合った部屋で仕事のやり取りをしているような感覚で作業ができるのが嬉しかった。

なにより、山小屋と言う流通と通信手段の不便な暮らしを選択してしまった僕に、パソコンの持つ通信手段が、山小屋にいながらにして都会との仕事のやり取りを簡単に可能にしてくれた。僕の森暮らしには好都合だった。山小屋の仕事部屋で、パソコンを使ってカラー処理したラフスケッチを、都心の編集部とメールで簡単に打合せができてしまう。仕上げた容量の多いデータ原稿も、MO（光磁気ディスク）やフロッピーディスクに保存し、郵便や宅配便を使えば翌日には入稿できる。実際にそうしたことを体験していると、パソコン周辺機器の発達やモバイル機器の凄まじい進歩の速さは、生活と娯楽を豊かにしてくれるものと信じるようになった。

こうした発展に、眼を剥く人々がいるのも確かだが、僕は心地よく享受している。要は、パソコンは道具だと理解しているからで、何もパソコンに人生を変えられたわけではない。この本のタイトルに「パソコンが僕の生き方を変えた」と名づけたのも、便利な道具との出会いで心地よい暮らしができるようになった変化を実感したからである。以来、東京の事務所にも、週末の山